

# 望岳山荘

にて

—中嶋嶺雄

国立大学の法人化問題がいよいよ重要な段階にさしかかっている。小泉政権は国立大学にも構造改革を迫る

姿勢を示し、文部科学省は「大学(国立大学)の構造改革の方針」をこの六月中旬に打ち出した。いわゆる「遠山プラン」がそれぞれ、要点は、①国立大

学の再編・統合を大胆に進め、スクラップ・アンド・ビルドで活性化、②国立大学に民間的発想の経営手法を導入し、国立大学法人に早期移行、③大学に第三者評価による競争原理を導入し、国公私「トップ30」を世界最高水準に育成、というものである。

これまで護送船団方式でやってきた全国九の国立大学には大変な衝撃で、「遠山プラン」が明らかにされた。去る六月中旬の国立大学協会総会ではまさにパ

ニック状況であった。しかし遠山大臣や工藤高等教育局長は、国立大学の再編・統合の方針を文部科学省の主導で断行する旨を翌日の国立大学長会議でも明言していた。



「遠山プラン」にたいしては、特に地方の国立大学学長や大学の現場の多くの教官が強く反発している。私自身は、日本の大学が国際競争力をもつために

も、ようやく来るべきものが来たと積極的に受けとめており、国大協総会での私の退任挨拶でもその点を特に強調したのだが、私のよ

うな立場は、国立大学全体のなかでは、いわば少数派ではないかと自覚している。

## 信大改革への期待

信州大学運営諮問会議の委員を務めさせていた。たいしているが、県下一円に学部が分散している

このような状況下で、大いに注目されてよいのが信州大学の改革方策だといえよう。私自身、昨年四月から

世界に知られる国際スズキ・メソッド音楽院(才能教育研究会)と信州大学との連携による

運営諮問会議で私は昨年来、世界にもほとんど例がなく学際的な協同が可能な「山岳科学」分野の創設と、

方からは貴重な意見を頂戴するのだが、学内はいわば御意見拝聴といった雰囲気ではな

私の大学でも、梅棹忠夫先生をはじめとする運営諮問会議の先生